

効果、耐久性に優れた 砂利暗きよの導入を



問 当幕別町における農地保全管理事業は、

地方向上策としていち早く堆肥の増産奨励、緑肥栽培による有機物農地還元とともに、小規模暗きよ排水事業が継続されてきた。

これらは、生産性の高い農業経営を推進する町の方策として価値が高く、その成果は広く町民に称賛されてきたところである。

しかし、今年のような6、7月の天候不順が続くと、昔施工したものの今は排水効果が全く無くなった農地では、作物の根は腐り、極端に生産性が低下し、当該農家にとっては心の痛む深刻な問題が発生している。

そこで、この小規模暗きよ排水工事についてであるが、地中に埋めた土管等を取り巻く被覆材や疎水材については、現在の町の指定はない。

即ちこれらは、補助対象外なわけである。

被覆材等については従来の麦稈に比べ砂利は、その効果、耐久性共に優れていることが明らかにされている。

る。

しかしながら、砂利の場合には材料費や施工費が高額なため、多くの農家にとっては実施に踏み切れない現状にある。

こうした実態を踏まえ、かつ基盤整備の投資効果の持続性を重視し、現在の農



暗きよ排水工事の様子

用地排水改善補助金交付要綱の見直しを図り、排水工事は効果の高い砂利暗きよに転換できるように基盤整備策の改善を求める。

町長の考えを伺う。

町長 農業基盤整備事業の中で行われてきた暗きよ整備は、従来、被覆材として麦稈が使用されてきた。

しかし、麦稈が腐るなどの要因により、暗きよの効きが悪くなり、土質にもよるが、耐用年数はおよそ15年程度と考えられている。

平成10年度以降は、道営の畑総事業において、砂利を疎水材とした暗きよの施工が行われるようになった。

砂利を疎水材とした暗きよが実際の程度の耐用年数となるか、今のところ不明であるが、施工した農家の皆さんからおおむね好評であると聞く。

町が実施している、農用地排水改善対策補助金交付要綱に基づく事業については、被覆材の疎水材の種類については指定していないが、最近の小規模暗きよ排水工事では、麦稈を使用し

ている方と、砂利を使用している方の割合は半々位であるが、事業を行う農業者の希望する材料で施工するのが現状である。

財政状況から難しい面もあり、今の制度で継続させていたただきたくご理解願いたい。

